

学校関係者評価 総評

評価日時：令和8年2月24日（火）9：00～12：00

評価委員：

- 委員長 当校非常勤講師（元大学教授）
- 委員 元副院長・看護部長、看護教育経験者
- 委員 卒業生、副看護部長
- 委員 推薦指定校 高等学校校長

学校出席者：教育主事 教員

議事：1) 教育主事および教員より以下について説明

- ・昨年度の学校関係者評価を受けての取り組み
- 2) 今後の課題等についての意見交換
- 3) 総評

【学校目標ごとの整理】

1. 国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の育成・確保

改正カリキュラムへの適正対応（3150時間→3030時間、重複領域の整理）により、学修の密度を保ちながら学生の主体的学習時間を確保できた点は高く評価される。臨床との協働も進み、実習指導者会議での事例共有や指導者研修の定着、高機能シミュレーター導入により臨床判断力の育成が実質化した。就職率は8割超で、国立病院機構・地域医療への人材供給を継続している。一方、就職試験の前倒しに伴う実習前の受験支援や、少人数教育の価値を外部に伝える広報・ブランド形成は今後の強化課題である。卒業生ネットワークやホームカミングデーを活用したキャリア連携、奨学金・インターンの戦略的運用により、採用競争下での人材確保を一層前進させることが期待される。

2. 主体的に学ぶ力を育成できる教育実践力の向上及び教育環境の充実

ディプロマ・ポリシーに整合したルーブリック評価が運用され、次年度からは実習の「経験回数」中心評価を「成果・能力評価」へ改める改善が進んでいる。教材のデジタル化（iPad導入）によりアクセス性が高まり、学生の多数が学力への肯定的影響を報告して

いる。紙資料との併用設計やオンライン学習環境の整備、PCの更新完了、校内Wi-Fiの充実など、学習基盤は概ね妥当である。他方、PDFのOCR検索やリンク設定等の利便性、そして生成AI活用の急拡大に対応した「適正利用教育（情報リテラシー／引用・出典教育、口頭試問・当日作成課題の併用）」の体系化が求められる。学内行事の再設計による企画力・自治力の育成、PBL・反転学習の拡充、災害時を見据えたデジタル／紙の冗長化も重要である。

3. 適切な安全管理の推進

BCP策定と運用開始、実習現場でのインシデント共有・再発防止、医療安全の横断的連携は、安全文化の醸成に寄与している。ICT更新に伴う情報セキュリティ確保も概ね良好である。今後は、生成AI利用に起因しうる情報漏えい・著作権・プライバシーのリスク評価とガバナンスの実装（ポリシーの周知徹底、ログ監査、教職員・学生研修の定例化）が急務である。シミュレーション教育を安全教育のプラットフォームとして位置づけ、手順遵守・医療安全・倫理の統合的訓練をPDCAで回すことで、臨床移行時のリスク低減が一層期待される。

4. 働き方改革を踏まえた業務の改善

業務改善ボードによる提案循環、ICT整備、派遣による教員不足の一時的補填は一定の効果を出している。令和7年度からの県補助金給付は運営の安定化に資する朗報であり、計画的活用と透明性の確保が重要である。一方、教員の業務量増大、企画・マネジメント力の育成枠組み不足、老朽化したホームページの刷新遅延などは改善余地がある。授業研究に客観的フィードバックを導入し、会議体の精選・定型業務のテンプレ化や自動化（DX）を進めることで負担を適正化できる。広報はインターネット出願やSNSの成果を踏まえ、刷新後のWebと統合的に運用し、学校の強み（少人数教育、臨床接続の強さ、研究実績）を戦略的に発信することが望まれる。

総括：本校は、教育の質保証と学校運営の持続可能性を両立させるための基盤整備を着実に進めている。今後は、①AI時代の学修保証、②安全文化の高度化、③教員育成と業務最適化、④財源の計画的活用と広報戦略を統合的に推進し、地域と国立病院機構に継続的に貢献する人材育成拠点としての価値を一段と高めていくことを期待する。